

## 学校経営のポイント

### “読書活動推進”の学校図書館整備と指導努力

若井 彌一

8月7日付けの『読売新聞』は、一面トップで、「国語力大ピンチ」「図書館で本借りたことない41%」「漢字で『積む』書けない46%」等の見出しをつけて、国立教育政策研究所の研究グループが昨年度実施した全国の小学校4年以上高校2年までの2,120人、小・中・高校の教師259人を対象とする調査結果の概要を、解説つきで取り上げている。

#### “読書教育に関する調査”結果の感想

「国語力大ピンチ」の大見出しをつけていることから推測されるところであるが、解説記事の内容は危機感に満ちたものであり、一部を紹介すると次のようである。

「図書館で本を借りたことがない」「宿題や授業でしか本は読まない」という子どもがそれぞれ2割前後いて、中学・高校教師の8割は「子どもの国語の学力が低下している」と感じている…。そんな実態が、文部科学省国立教育政策研究所の研究者が行った「読書教育に関する調査」で明らかになった。

読書離れの傾向は、学年が上がるにつれて深刻になっており、教師の多くは「大人や教師が本を読まなくなった」ことを原因にあげた。同時に行った漢字の書き取り調査では、小学校4年で習う「積む」を書けない高校生が5割近くにのぼった。

このように、図書館を利用しない、本を読まない子どもの割合が学校段階の進行に伴い増加している、国語力（漢字書き取り能力）が低下している、という3つのことがセットでとらえられているのが解説記事の特徴である。

抜粋した部分だけを読んでみると、たしかに事態は少々深刻であるようにも思われるが、漢字の書き取り能力を見ると、「積んだ」は小学生35%、中学

生39%、高校生54%が正解で、極端に低い結果が出ているものの、他の漢字はたとえば、「川下」（小82%、中83%、高90%）、「晴れて」（小74%、中83%、高90%）、「着物」（小67%、中92%、高94%）、「墓地」（小34%、中66%、高81%）というような結果であり、小学生よりも中学生、中学生よりも高校生と、それなりに漢字書き取り能力をつけていることが窺われる。

#### 学校図書館の整備と読書指導の充実工夫

調査結果を見てもっと深刻に受けとめるべきことは、高校生の場合、図書館で本を借りたことがない者が、調査規模が小さいとはいうものの、41%にも達している点である。

「図書館」が、文字どおり社会教育施設としての図書館なのか、学校図書館なのか、それとも両者を包含しているのか、高校生がどのように理解したうえで回答したものか判然としないが、「宿題や授業でしか本は読まない」者が、高校生の場合33%もいることは軽視すべきではなからう。

読書活動推進基本計画も、近々本決まりになりそうである。今回の調査結果を参考にして、基本計画をも視野に入れつつ、それぞれの学校で2学期以降の本格的取組みの検討に入っていただきたいものである。（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

#### ■お知らせとお願い■

- …本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等の場合は、宛先、新・旧FAX番号、等を必ずご明記くださるようお願いいたします。
- …バックナンバーの配信は、いたしておりません。バックナンバーは、小社ホームページをご覧ください。

本紙はホームページでも閲覧できます

最新刊発売中！ 新指導要領全面实施と“各学校での評価規準づくり”へのテキスト！教育開発研究所・刊

## 中学校『評価規準の作成と活用』国研・評価規準全文収録

既刊 小学校『評価規準の作成と活用』 大好評発売中！

B5判304頁・定価2400円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）